

荒尾市民病院 新病院（仮称：荒尾市立有明

医療センター）建設基本構想を策定しました

園政策企画課病院建替準備室 ☎ 62-1222

なぜ、今、建て替えが必要なのか

【施設の老朽化】

荒尾市民病院は年間で入院・通院共に延べ8万人以上に利用されています。しかし、最も古い病棟は建設から45年を経過するなど、施設の老朽化が著しく、入院患者の療養環境として最適とは言いがたい状況です。さらに、建設時の基準で設計されているため、病室や廊下が狭く、患者、家族やスタッフなどにとって、使いにくいものとなっています。また、補修・改修には毎年多額の費用が掛かっており、加えて3棟の病棟のうち2棟は耐震補強も求められている状況です。

【経営状況の改善】

市民病院の経営状況は、平成16年度以降、国の新臨床医研修制度に伴う大幅な医師減少の影響もあり、急激に収益が減少して大幅な赤字となりました。そのため、平成20年度に「中期経営計画」を策定し、抜本的な改革に取り組んできました。その結果、平成21年度から黒字に転換して増収増益を続けてきました。平成25年度も4億7千万円ほどの黒字の見込みで、最大で42億円ほどあった累積赤字も25億円ほどに減少する見込みです。

建て替えを進める上で、大きな不安材料だった経営状況も、この5年間で大きく改善し、安定した経営体制も整いました。施設の老朽化や耐震強化に対応し、医師などの確保を図り、有明地域住民の「命と暮らしを守る拠点」であり続けるために、病院の建て替えに向けて踏み出しました。

【検討の経緯】

市のマスタープランである第5次荒尾市総合計画で「病院の建て替え検討事業」を重要な事業の一つに位置付け、平成24年度から病院の建て替えが市財政に及ぼす影響など内部検討を進めてきました。

平成25年10月には、新病院建設へ専門的な観点から意見をいただくため、学識経験者・医師会、保健所、公認会計士や地域住民代表など8人で構成する「荒尾市民病院あり方検討会」に対し、新病院の役割、機能、施設規模や建設地など、整備の方向性を定める「新病院建設基本構想（案）」の策定を諮問しました。

およそ8ヶ月にわたる検討会での議論を踏まえてまとめた「基本構想（素案）」は、ことし6月から1ヶ月間、パブリックコメントを実施して、市民の皆さんからいただいた意見や市民説明会でいただいた意見も考慮して、7月30日に「新病院建設基本構想（案）」として市長に答申されました。

答申を受けて、荒尾市は、市民の代表である市議会とも対話を重ね、平成26年8月、「新病院（荒尾市立有明医療センター（仮称））建設基本構想」を策定しました。

今後は、設計の条件などを定める「基本計画」の策定に向けて、検討を続けていきます。



▲建設地：荒尾競馬場跡地（26haある敷地の一部に建設します。）

新病院の診療体制と規模

【診療体制の主な拡充点】

- ・高齢化に伴う将来の患者数の増加にあわせ、既存の診療科を堅持します。
- ・脳卒中への対応を強化するため、神経内科医師の常勤体制を目指します。
- ・主に高齢化に伴う呼吸器疾患（肺炎など）や合併症に対する他診療科との連携体制を強化するため、呼吸器内科医師の常勤体制を目指します。
- ・地域の歯科医師会とも役割分担に関する協議を行い、歯科口腔外科の新設を検討します。
- ・災害拠点病院と地域救命救急センターの指定を目指します。
- ・地域の医療機関や介護事業者との連携をさらに強化します。

【病床数】

- ・一般（急性期）病床に加え、急性期後の回復期のリハビリテーションを集中的に行い、患者の在宅復帰支援機能の強化を図るため「回復期リハビリテーション病棟」を導入します。
- ・全体病床規模は現状を維持します（想定延床面積は21,400㎡）。

●新病院病床数

病床名	病床数（床）
一般（急性期）	230
回復期リハビリ	40
感染症	4
合計	274

※国の医療政策などにより病床数の内訳は変更になる場合があります。

荒尾競馬場跡地を建設地に選定しました

建設候補地は十分な敷地面積（3haほど）を確保できること、10年以内に開院できるよう用地取得を円滑に進められること、市有地を活用できること、用地取得費・造成費・インフラ整備費などが抑えられることや候補地にある施設の代替施設整備が不要であることなどの条件で選定しました。

現在の病院のある場所のほか、①荒尾競馬場跡地②野外音楽堂③大和団地④聖人原の4つを抽出しました（①から③までは市有地）。

候補地を「土地の状況」や「交通の利便性」な

どの9つの視点から総合的に比較検討して、「荒尾競馬場跡地」を建設地に選定しました。

主な選定理由は①市内には広大で平坦な未利用地は他になく、病院を中心とした住まい・介護・健康づくりなどが一体となった拠点づくりができること②駅にも近く有明海沿岸道路の整備も予定されており、交通の利便性が良いこと③病院の利用者や職員など、人の流れが増えて、中心拠点として、荒尾駅周辺の活性化につながり、荒尾市全体の発展をけん引する効果が期待できることです。

建て替えについてのQ & A

パブリックコメントには19人・1団体から延べ63件・26項目の意見や質問をいただきました。質問や意見への詳しい回答は市ホームページからご覧ください。

Q. 現地での建て替えはできないのですか？

A. 市民病院の敷地は狭く、現在の病棟を壊してから新病棟を建てることになり、一時的に入院患者の受け入れ停止、外来診療や検査の制限・縮小が生じ、必要な医療を十分に提供することができなくなります。また、複数の病棟に分かれた非効率的な施設になるとともに、建設期間が長くなり、建設費も移転の場合と比較して高くなるため、効率的な新施設を建設することはできません。

Q. 津波や高潮が心配なのですが…

A. 熊本県が行った試算では、津波の波の高さは最大でも50cm未満であり、現在の堤防で対応できます。さらに、現在、堤防を補強し、1.2m以上高くする改修工事や、競馬場跡地の地盤高を2mほど高くする盛土工事を実施しているため、津波や高潮への十分な対策が整います。

Q. 新病院建設での病院の経営が心配です…

A. 事業費を30年という長期間に分割して返済します。新病院の施設では、効率的に病床を活用できるため、十分に採算性を保つことができると考えています。また、事業費総額の5分の1ほどは、国から交付税という形で補助があります。

概算事業費

総事業費はおよそ98億円です。そのうち、建築工事費は東日本大震災以降に着工された同規模病院の平均単価を基に72億円、医療機器等整備費は新病院開院時に必要となる費用を19億円と試算しています。

実際の事業費は、基本計画以降の段階で、具体的な施設整備計画の検討を進め、社会情勢の変化などにも応じ、抑制を図りながら算出していきます。

基本構想策定から新病院開院までの流れ

平成31年度中の開院を目標に、準備を進めていきます。スケジュールは変更になる場合もあります。

